

2013年世界ジュニアペタンク選手権大会報告



松田 浩一

初めての世界ジュニア選手権大会、また監督兼コーチという重責、本協会からの同行者が私一人という戸惑いと大きな不安

を抱えながらの参加となりました。

選手は、京都市で開催した選考会の成績上位4名、長野県の男子高校生・京都府の女子中学生・岡山県の男子中学生と男子小学生、地域・年齢・男女と共通点が非常に少ないうえ、ほぼ初対面というチーム編成でした。そこで、8月初めの猛暑の中、この4

名に加えアジアジュニア選手権のメンバーとの合同練習会を開催しました。ここで、目的としたのは選手間の会話をたくさん行い、互いを思いやり励まし合うこと、また自分の役割を考えることでした。この時、頭では理解してくれていたと思いますが、行動には余り現れていなかったと思います。

そして、8月28日、選手・保護者等11名で関西空港を出発、ドイツのフランクフルトを經由しフランスのトゥールーズ空港へ到着。実は、この時フランクフルトでの乗換にトラブルがあり、予定より1日遅れの到着となっていました。そこから、バスで約1時間の開催地であるモンターバンへ到着。トラブルはさておき、到着後早々にホテルのチェックインを済ませ、移動でなまった体を動かすために大会会場へ。



関西空港にて



スイスチーム

そこで、子供たちが見たものは、ペタンク会場に観客席が設置されている光景に、興奮とここで自分たちも試合ができるという喜びの表情と少し緊張の面持ちになっていました。この日の夕方から市庁舎での歓迎会、翌日もモンターバン市内でのパレードと、歓迎モード一色のゆったりとした時間を楽しみました。ゆっくりランチを取った後、いよいよ待ちに待った大会、スイス方式による予選5試合のスタート。

第1試合はスイスと対戦、これまでのリラックスモードは一変し、緊張とともにあっという間に、2点、6点、1点と得点を許した後、3点、1点と取り返したが、抵抗もここまでとなり4-13で初戦は黒星となりました。

第2試合はスロバキア。まだ緊張と敗戦を引きずり、またしても序盤0-7とリードされました。ここでようやく緊張も少しほぐれ日本の練習会で課題とした会話が少し取れはじめ、得点を重ね追いつき追い越し12-8と逆転したところで4点、1点と得点を許し、12-13と本当に悔しい敗戦となりました。

この後、ティールコンテストへ続き、日本からは矢澤君が出場し、1次予選で23点を取り、2次予選へ進みましたが、残念ながらここで敗退、ここで日本チームは大会初日の日程を終えました。

2日目は、8時30分から予選第3試合のオーストラリアと対戦し、余裕も出だしチームとしての和もできてきたところで13-5と記念すべき初勝利となりました！！

ただ、第4試合目のポーランド、第5試合目のエストニアは、善戦するも敗戦となり予選は1勝4敗とネーションズカップへ進むこととなりました。

3日目は、8時からネーションズカップ第1回戦、デンマークとの対戦となりました。デンマークは、2m近い二人の選手に驚きながらも序盤から終始リードし12-5、ただここからの1点が遠い1点となり、終わってみれば12-13と逆転の敗戦となりここで公式の試合は終了しました。



デンマークチーム

これらのことを、目の当たりにしたジュニア選手の成長と今後の活躍が非常に楽しみです。

また、大会期間中の各国選手との交流、最高に楽しかったレセプション、海外滞在等とたくさん経験したことは、これからの人生にきっと役立つものと信じています。そして、その経験と楽しかったことを多くの仲間に伝えてください。

最後になりましたが、選手および保護者の方々に対し、いたらないことが多くご迷惑をお掛けしたことをご容赦いただきますとともに、一緒に参加できましたことに感謝し、お礼申し上げます。



オーストラリアチーム

今回、初めてジュニア大会に参加して、優勝したタイ、開催国のフランスはもとより、上位になるチームは、固いコートでも簡単にティール・カローする。ポワンテは、ビュット前に止める。1投目をミスしても、2投目は失敗しない等々、技術の高さに驚きでした。加えて、個人として毎回、海外と日本のペタンクは似て非なるものだと感じます。海外は、ティールで攻め、ティールで守る（相手の得点を減らす）。これは、両チームともにティールの精度が高いことからきていると思います。ただ、個人的に思うことは、ティールに目を向けがちですが、ポワンテの精度はそれ以上に高いものがあると思います。



幸運を呼ぶシャボン玉シャワー



レセプション



堅田 琴美

フランスでの世界大会、何もかも初めてのことばかりであっという間だったような気がします。

スイスとの一試合目、私はすごく緊張していていつもどうり投げられませんでした。チームのみんなも同じだったようで、失敗しても成功しても声をかけ合う事も出来ずに負けてしまいました。

2試合目のスロバキアとの試合も初めはまだまだ緊張の中、先に点数を取られて負けていましたが、みんなが少しずついつもの投球が出来るようになってきて同点になって、リードする事が出来ました。あと2点という所で油断してしまったのか、追いつかれて最後には負けてしまいました。

2日目の1試合目のオーストラリアとの試合はコートも変わって、みんながそんなに緊張せずに試合に臨む事が出来て勝つ事が出来ました。初勝利だったのですごく嬉しかったです。2日目の2試合目のポーランドとエストニアの試合は調子を崩してしまって負けてしまいました。

結果、一勝四敗で予選を上げる事は出来ませんでした。

ネイションズカップの一試合目はデンマークとでした。デンマークの選手は身長が2メートルある人が二人もいて、あっ君との身長差もすごくあってにこやかに写真を撮ったりしていたせいか、みんな調子が良くてずっとリードしていました。

11-5でデンマークの選手が一人交代したくらいからみんなの調子が悪くなってきて追いつかれてしまいました。12-12の大事な時に出させてもらったのにポワンテは失敗してしまい試合は負けてしまいました。とても悔しかったです。

凄く凄くいい経験が出来て最高に楽しかったです！



堅田 桂子

ジュニアの世界選手権、応援に行く事が出来て本当に良かったです。

何とんでもこんなにたくさんのペタンクをするジュニア選手の姿を日本国内で見る事は無いし、アジア大会の雰囲気とも全く違った感じで、とにかく若さの活気があふれていて見ている方もワクワクする感じでした。

広大な広場の一角に作られた観客席付きの専用コートは圧巻で、気分も盛り上がる最高の舞台です。こんなペタンクの本場フランスで試合が出来るなんて、なんてラッキーな子供たち！今回の世界大会はみんなが初めての国際大会と言うのもあり、選考会後の一回だけのメンバー揃っての練習会だけで勝てるほど甘くない事は覚悟の上の出場でした。

1試合目のスイスとの試合はさすがにみんなガチガチで、チームの中で声をかけあう事も出来ないくらいあがってしまっているのが分かって、私たちの掛け声も「声出して！」「喜んで！」（成功球の時）と変な応援でした。でも試合を重ねていくうちに子供たちの緊張も和らいできて、オーストラリアに勝つ事が出来て、ホント快挙だと思いました！

他の国の選手と技術的にもっともっと差があると思っていましたが、メンタル的なところでどこの国の子も乱れる事もあるし、一緒なんだなと感じるところもありました。その中でもやはり決勝トーナメントに進んでいるところはミスも少ないし、何とんでもティールを外さない、カロになる確率が高いという大人顔負けのプレイに何度も鳥肌が立ちました。

タイ、フランスは別格の安定感でしたが、選手たちのチームワークの良さと言うのも感じられました。

あっという間の4日間でしたが、歓迎会や町の中をパレードしたりファイナルパーティでの盛り上がりは子供たちにとってどれも忘れられない素敵な思い出と経験になったと思います。この経験を糧にもっとレベルアップして行ってほしいです。



矢澤 翼

松田監督へ

この度は色々とお世話になりました。本当にありがとうございました。

僕はこの大会が初めてで最後の大会だったのですが、今回の体験で沢山の事が学べたと思います。

まず初めに、デンマーク戦では、最後の方、勝っていながらも苦しい展開になりました。それで自分達のプレーが出来ないまま終わってしまいました。すごく悔しい敗北となりました。たぶんこの敗退は、これからのペタンク人生にも忘れられない負けになったと思います。

オーストラリア戦ではみんなが、良いプレーを出し、流れに乗って勝てた事がよかったです。みんなで勝った初めての一勝だったのですごく嬉しかったです。また、応援して下さった方々に恩返しができたと思うので良かったと思います。

ティールコンテストでは沢山の方に応援してもらい、松田監督に支えてもらったおかげで、1回戦を突破できたと思います。皆さんの応援がとても力になりました。だから二回戦突破できなくて、ほんと自分の力不足だったと思います。

最後に世界大会の感想で、外国の子と交流できてとても嬉しかったです。そして世界にはとてもうまい選手がいて、とてもびっくりさせられました。大人になるまでに追いつき、そしてもう一回世界大会に出たいと思います。そのためにももっと練習をこれからもたくさんしていきたいと思います。

それでこれからの課題は、

- ・ポワンテの精度を上げる。
- ・ティールは良く狙い、自分のタイミングで投げる。
- ・チーム戦の場合、最初の人ミスしたら、後の人に任すのではなく、全員で一つのボールを投げるように、投げない時も皆が一球一球に気持ちを込めて投げる。
- ・最後まであきらめない、強気でやる、楽しくやる等々です。

以上の事を目標にして頑張っていきたいです！



矢澤 正志

松田様

世界ジュニア選手権では、大変お世話になりました。

翼は年齢制限最後の年に、世界選手権に初めて出場することが出来ましたが、当然世界に出てみると技術的、精神的に強い子が沢山いることを実感しました。

日本チームの中で息子は最年長でチームを纏める役割なのに、本人が緊張してしまい、いつもの思いきったプレーが出来なかったように思えます。日本が勝ちきるには勝負する気持ち、相手がミスをしてくれると思わず、真正面から勝ちを勝ち取る気迫が必要だと全般的に思いました。

翼が今回このような大会に出場させて頂き、ペタンクはもちろんのこと、貴重な経験が出来た事は、親としても大変ありがたく、また翼には沢山の方への感謝の気持ちを忘れずにいて欲しいと願います。2年後は関西中心のメンバー構成になると思いますが、気迫、元気の有るチームができることを期待しております。

最後に松田様には色々、翼に御指導くださり両親共々感謝しております。また何処かの大会でお会いできる日を楽しみにしております。諏訪にも是非お出かけください。

お体にはくれぐれもお気をつけ下さい。

これからのご活躍を心よりお祈りしております。



加藤 春 沖

僕は初めて世界ジュニア選手権大会に参加させていただきました。思った以上に地面が固く緊張も加わり、いつものようにプレーできませんでしたが、たくさんの事が学べました。

まず、一球の大切さです。相手チームは二球失敗する事が少なく、ミスしても残りの人がうまくカバーしていました。僕はミリュウで最後に投げる事が少なくなかったのですが、うまくカバーできませんでした。

次に、一点の重さです。最後に得点できず悔しい思いをした試合がありました。プレッシャーがかかった時、それに勝つ精神力が大切だと感じました。

支えて下さった多くの方のおかげで、とても良い経験ができました。今回の経験を生かして、また日本代表になれるよう練習したいと思います。ありがとうございました。



加藤 みゆき

フランスで一番印象に残ったことは、ペタンクが家族や友達と気軽に楽しんでいたことです。小さい頃から親しんでいるからか手首がとても柔らかく、鉄球をお手玉のように扱っていて驚きました。

また他国の選手と触れ合うことで、いろんなことを教えてもらい、感じ、学んでいたようです。本当に良い経験をさせてもらいました。ありがとうございました。



高 谷 篤 史

今回の大会は、自分の初めての世界大会でした。この大会で思ったことは、自分の1球目の大切さと大事な場面でのポワンテです。

エストニアとの試合で1球目がオーバーしたり、ボールが横に外れたりして、チームにも悪かったと思います。

また、スロバキアとの試合では後半に出させてもらい、11点まで追い上げることができましたが、大切な場面でのボールが決まらなかったのが悔しい点です。

さらに、試合開始から出させてもらっていたデンマークとの試合でも12-5でリードしていた中「あと1点」と思うと2球ともミスをしてしまい、それまでのいい流れを切ってしまいました。

最後の1点というプレッシャーに勝てるような力が大切だと思いました。そして、ポワンテだけでなく苦手なティールも確実に当てるようにならなきゃと思いました。



高 谷 正 樹

保護者としては力試しの思いの方が強かった代表選考会で、結果として小学校6年生での選出の荣誉を受けたことに、当初は戸惑いもありましたが、本人の意向を最大限尊重することを誓った事を思い出します。

本大会においては、各国トップ選手達との出会いや、実現した試合への出場、そして試合以外の時間での自・他国の選手達とのふれあいに、本人はかけがえのない経験をする事ができたと思います。

また、今回結成されたチームのメンバーとも一体感を持つことができたことで、本人としては今メンバーでの試合出場回数を少しでも多くしたかったという思いがあるようです。

再び挑戦するチャンスがまだある本人にとって、今後の自己練磨の思いが大きく膨らんだ大会となり、保護者としては出来るかぎりのサポートをしていくつもりです。

末筆になりましたが、今大会への出場に携わられた関係各位、そして松田監督をはじめ、同じ時間を共にした日本選手団の皆様にも厚く感謝を申し上げ、ご報告とします。

本当にありがとうございました。